

(甲斐市立竜王西小) 学校 学校関係者評価書

令和 6 年 2 月 9 日 (金)

(甲斐市立竜王西小学校) 学校関係者評価委員会

第 1 回 学校関係者評価委員会

実施日：令和 6 年 2 月 2 日 (金) 午後 3 時～

会場：甲斐市立竜王西小学校学習室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議員 高相 治夫、植松 章子、功刀 妙子

P T A 副会長 塩島 理江

(学校側) 校長 立澤 正二、教頭 飯塚 正規

教務主任 丹下 博喜

I 学校側から提案された内容

- ・教職員自己評価結果と考察 (保護者アンケートも含む)
- ・児童アンケートの結果と考察
- ・創甲斐教育の数値目標についての結果と考察
- ・課題改善に向けた今後の取組

II 協議された主な内容

- ・地域との連携による活動について
- ・学習しやすい環境整備について
- ・家庭環境と児童の生活習慣について
- ・学校運営協議会について

< 学校関係者評価書 >

I 全体評価

○教職員自己評価のすべての項目において A (とてもそう思う) または B (そう思う) が最頻値であり、AB を合わせた回答は、すべて 9 割を超えていた。昨年度は、Ⅲ-4 に関して 84. 2 % であったことから考えると、今年度は学教教育目標の具現化に向けて、昨年度以上に教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいたと考えられる。

○児童アンケートから、各質問や学校生活全般・人間関係に関わる質問への回答では、肯定的な回答 (A・B) が多くの割合を占めている。具体的なものとしては、肯定的な回答 (A・B) が、1 「学校は楽しいですか」 90. 2 % (昨年+1. 8)、9 「授業 (勉強) でわからないことがあったら、先生に聞いていますか」 77. 2 % (昨年比+5. 2)、10 「人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか」 75. 3 % (昨年比+6. 2)、23 「だれとでもあいさつをしていますか」 90. 2 % (昨年比+1. 1)、26 「友だちと話したり、活動したりすることが楽しいですか」 96. 9 % (昨年比+2. 5) である。それぞれの項目で多くの児童は、昨年度より楽しい学校生活を送っている様子がわかる。

Ⅱ 特 徴

○学校教育目標に関して・学校経営についての自己評価4設問中すべてにおいて、肯定的評価(A・B)が100%となった。

○自己評価では、7設問中5設問で肯定的評価(A・B)が100%となった。7「あなたは業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」という設問に対して、昨年度はC評価が7.7%あったが、今年度は、肯定的評価(A・B)が100%となった。これは、今年度働き方改革に向けて教職員全体で積極的に取り組んだ結果だと考えられる。

○生徒指導について自己評価は、6設問中、5設問について肯定的評価(A・B)が100%となった。設問5「あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができています。」は肯定的評価(A・B)95.8%であり、昨年度の100%より4.2%低い数値となった。保護者アンケートでは、生徒指導に関わる設問すべてにおいて、昨年度より高い数値となった。

○地域との連携についての自己評価すべてにおいて、肯定的評価が100%であった。特に、設問1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」に関して、昨年度は96%の肯定的評価(A・B)であったが、今年度は、100%の達成となった。現在西小でお願いしている地域の人材や施設の活用が定着化した成果として表れていると考えられる。しかし、同じ人材や施設であってもその授業を受ける児童は毎年変わっていることを念頭に、教員の意識がマンネリ化しないようにしていくことが重要だと考える。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

○防災訓練は、様々な災害・状況を想定して、行いたいのが、他の行事や学年学級の活動等もあるので、訓練の回数が限られてしまうのは仕方がない。しかし、発災時には瞬時に危険回避行動を取り、安全な場所へ避難する力を児童に身に付けさせることは、とても大切なことなので、一つ一つの訓練をより実践的なものにするための工夫をしてほしい。災害時に保護者が児童を引き取りにくる「引き渡し訓練」も、形骸化しないように、より実践的な訓練になるよう、実施の仕方も一考していただきたい。

○児童アンケートの「学校は楽しいですか」という設問では、肯定的評価(A・B)が90.2%と高い数値を示している。多くの児童が、友達や教師との関わりの中で、充実した学校生活を送っている様子がうかがえる。一方で、「授業は楽しいですか」という設問では、肯定的評価(A・B)が83.5%と高い数値ではあるが、「学校は楽しいですか」の設問と比較すると、やや数値が低くなっている。学校の中心は授業であるので、児童がよく分かり、且つ楽しく、更に主体的に学べるような授業を、目指してほしい。

○コミュニティー・スクールを視野に入れ、児童の教育に役立つ人材など、地域の持つ力をこれまで以上に活用していきたい。学校側でも、学習を進めていく上で、どのような地域の人材が必要なのか、必要に応じて計画を立ててもらい、情報を共有しつつ、できる限りの協力をしていきたい。

※特記事項

○いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期解決に向け、関係機関等とより連携を図るため、主任児童委員など、各関係機関の方々がこの会に参加することは良いのではないかと。

○学校評議員とPTA役員が直接話す機会は貴重であり、学校運営に意見を反映させるためにも大切である。

記載責任者（甲斐市立竜王西小学校 学校関係者評価委員）氏名：塩島理江

